



TITLE:

表紙・目次・編集後記ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次・編集後記ほか. 宗教学研究紀要 2011, 8: 79-80

ISSUE DATE:

2011-11-30

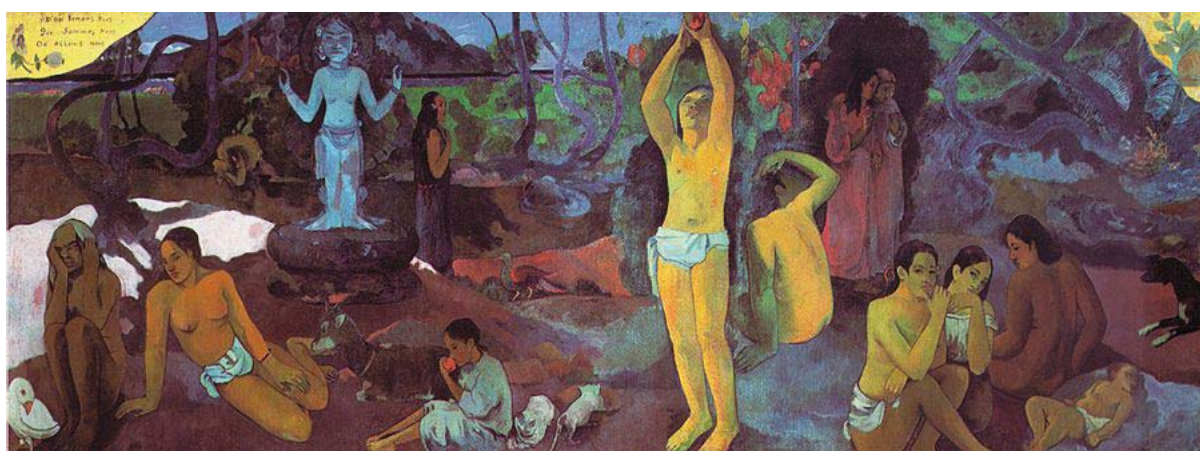
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/151320>

RIGHT:

宗教学研究室紀要

THE ANNUAL REPORT ON PHILOSOPHY OF RELIGION



2011 vol.8

京都大学 文学研究科 宗教学専修 編

オンライン刊行物 <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/>

第8号 (2011年) 目次

Une réflexion sur le kantisme : le cas Paul Ricœur (1)

Eriko SUENAGA (3)

レヴィナスにおけるエロスと子を生むこと（父性）をめぐる一試論
——救済の問いに向けて

根無一行 (20)

ヤスパースにおける間接的伝達の問題

藤田俊輔 (40)

ニーチェ『道徳の系譜学』における「無への意志」の階層性と両義性について

松田 愛 (59)

編集後記

(79)

——宗教学研究室紀要編集委員——

氣多雅子	京都大学大学院文学研究科	教授
杉村靖彦	京都大学大学院文学研究科	准教授
秋富克哉	京都工芸繊維大学大学院	教授
伊原木大祐	北九州市立大学	准教授

——第8号執筆者紹介——

末永絵里子	パリ第10大学	博士課程
根無一行	京都大学大学院文学研究科	博士課程
藤田俊輔	京都大学大学院文学研究科	博士課程
松田愛	京都大学大学院文学研究科	博士課程

*****編集後記*****

3月11日の東日本大震災で犠牲になられた方々には深く哀悼の意を表し、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

震災後、「絆」という言葉をよく見かけるようになりました。この言葉は「宗教」哲学を看板に掲げる私たちの研究室に深くかわるものであります。いかなる「絆」をいかにして語り出していくことができるのか、本紀要がそうした問いになんらか応答しうる思索の場となればと願っております。

今号には公募論文を四本掲載することができました。研究室の若手の活発な活動をお伝えできたのではないかと考えております。編集委員の先生方にはお忙しいなか査読していただきました。ここに記して深く感謝いたします。

(根無一行記)

宗教学研究室紀要 第8号 (京都大学 文学研究科 宗教学専修 編)

2011年11月30日発行

Articles

Une réflexion sur le kantisme : le cas Paul Ricœur (1)

Eriko SUENAGA 3

Un essai sur l'éros et la fécondité (la paternité) chez Lévinas : vers la question du salut

Kazuyuki NEMU 20

Über das Problem der indirekten Mitteilung bei Jaspers

Shunsuke FUJITA 40

Zur Sich-vervielfachung und Zweideutigkeit des „Willens zum Nichts“

in *Zur Genealogie der Moral*

Ai MATSUDA 59